

先たちの精神がいまもまだ土地の中に生き長らえていると私たちは信じています。

しかし、この五〇〇年以上、グアハンはスペイン、アメリカ合衆国、そして第二次世界大戦中は日本と次々に植民地化され、土地や言葉、権力を奪われてきました。私たちの歴史は植民者たちの歴史書には出てきません。私たち自らが生存の証として歴史を伝えてきたのです。沖縄からグアムへの海兵隊移転は、私たちの闘いの歴史の新しい一章となるでしょう。

米国政府が最初にグアハンの米軍を増強すると発表したとき、八〇〇〇人の海兵隊員とその家族九〇〇〇人だけが移転してくとされてきました。しかし、昨年一月に国防総省が発表した環境アセスの素案では、海兵隊だけではなく、原子力空母の一時立ち寄り、陸軍のミサイル防衛部隊の駐留についても書かれていました。素案によると、移転事業がピークに達する二〇一四年に、グアハンの人口は八万人近く増えるとされているのです。これは現在の人口の約半分にも達します。島の構成は大きく変わり、さまざまな悪影響があるでしょう。

米環境保護庁は、グアムのインフラはこのような急激な人口増加には耐えられず、計画は不満足なものといわざるを得ない、としています。たとえば、水は最大で一日あたり六一〇万ガロン（約二万三〇〇〇キリットル）不足すると予測されています。

また、原子力空母を寄港させるために、米国は七一エーカー（約二八・七ヘクタール）のサンゴ礁を浚渫し破壊しようとしています。破壊

## もつやめよう！日米安保条約

# 辺野古の闘いと日米安保

「平和」の中身を問うべきだ

いまビクトリアさんの話を聞いて、グアムと沖縄は「マイノリティ」という意味で一緒だな、と感じました。沖縄の闘いは、グアムの人々と相通

されるサンゴ礁はアブラ湾のもつとも豊かなサンゴ礁であり、地元の漁民や観光産業への悪影響があるでしょう。

しかし、グアハンにおける最大の絶滅危惧種は、私たちチャモロ民族だと言つてもよいでしょう。八万人がなだれ込めば、チャモロはマイノリティになつてしまします。

海兵隊員の射撃訓練場のために三九〇〇エーカー（約一五平方キロメートル）の土地を奪う計画もあります。その土地は原生的な森で、歴史的・文化的意味合いを持った土地でもあります。もしその神聖さがかき乱されることになったならば、それは私たちの文化的信条に著しく反することです。米国政府はすでに、島の三分の一を占領しているというのに。

この米軍増強計画は、私たちの日常生活にも後戻りできない変化を与える恐れがあります。沖縄の人々は、海兵隊による暴力と犯罪ゆえにそのブレゼンスに反対し続けてきました。だとすれば、グアハンでもいったいどんな違いがあるのでしょうか。

驚くべきことは、私たちにはこの決定における選択権がないということです。私たちの意見はまったく尊重されていないのですから、米軍増強が私たちによい影響を与えると想像することはできません。私たちは、私たちの将来を決める米国や日本の政治家を選ぶことはできませんが、あなたがた日本の市民にはその力があります。ぜひとも、日本政府の方針に異を唱えていただきたいのです。

（訳・まとめ／山口響）

安次富浩

じるものがあります。私たちは今まで、普天間基地はアメリカに持つて帰れ、新しい基地建設はノー、ということはずっと主張してきた。他府県のどこかに持つていけということ私たちは運動の中で言っていない。し



かし沖縄の中で、もうこういう運動はなまぬるいのではないか、日米安保が必要であるというならば、ヤマトが平等に受け入れるべきではないか、という論調が強くなっています。

鳩山前首相が全国知事会で「沖縄の負担軽減のために訓練の一部移転を引き受けてくれないか」という要請したとき、石原都知事は「沖縄の人は気の毒だが我慢してくれ」と言った。こういう石原さんに対して私はあえて言いたい、「だったら羽田沖に作りなさい」。鳩山も「埋め立ては自然への冒涇だ」と思うのなら、羽田空港をもうちよつと拡げて作つたらい。東京湾のほうが沖縄の海より汚れているのだから。これが正直なわたしの気持ちです。

石原都知事や日本の平和を貪っている皆さんに知ってほしいのは、沖縄の米軍基地はアメリカが引き起こす戦争の出撃拠点だということです。ベトナム戦争あるいはアフガニスタン、イラク戦争で、沖縄から戦闘機や海兵隊が最初に出撃し、市民を虐殺している。私たち沖縄県民は「基地と共生・共生」しているかぎり、アメリカが介入する侵略戦争の加担者です。このことを忘れないでください。沖縄に米軍基地が集中することで平和を得られるというのであれば、皆さん、その平和の中身を問うべきです。

#### 沖縄を足蹴にする民主党

私たちは鳩山首相に対して、大きな怒りと恨みを持っています。かれらがやっていることは沖縄差別政策です。四月二五日の県民大会には九万人以上が集まった。そして五月一六日には記録的な豪雨の中、一万七千人の輪で普天間包囲を勝ち取っている。沖縄が怒りの声をこれほどまで日本政府に突き上げたのにもかわからず、何の応答もないどころか、「抑止力」として海兵隊が必要だと言い始めた。そして、「最低でも県外移設」は首相としての発言じゃないとまで言い訳をする。この無様な、惨めな首相を、私たちは国民のトップとして選んでしまった。そのことを私は非常に口惜しく思います。

この鳩山政権下において、前原沖縄担当大臣はどういうことをやったと

思います？ 稲嶺市長に対抗して、落選した前市長島袋吉和、その後援会長、観光協会会長、まあ、土建業者です。こういう人たちを東京に呼んで密談している。もうアメの話が出てきている。そういうやつで稲嶺市政を覆そうとしています。菅首相も所信表明で「沖繩の過重な負担に対して感謝」しなければならぬと言った。今までのことを謝罪しますというのだからまだわかるけど、沖繩の負担に感謝しますと言って、普天間の代わりの基地を辺野古に持って来る。ふざけるんじゃない。もう私たちは民主党そのものを信頼しません。

今の民主党は、党員議員の意思ではなく、アメリカの意思を政策に反映している。そういう中で、沖繩は、「マイノリティ」という形ですべて押し付けられるのを拒否する。私たちがどういう闘いをするのか。九月二日に名護市会議員選挙があります。そこで、二七議席のうち過半数を制覇し、基地建設反対の稲嶺市長に対するリコール運動を阻止する。それから一月二八日には県知事選です。特派員協会で発言した伊波洋一宜野湾市長は、「私が知事だったら埋め立て申請を許可しません」とはっきり言っ

## 集会アピール

戦後最大の民衆運動とされる60年安保闘争から50年目にあたる今年。そして、その広範な異議申し立てにもかかわらず、改定安保条約が自然成立した今日、六月一九日に私たちは集会を持ちました。

——「もうやめよう！ 日米安保条約」  
この集会タイトルに私たちの思いは集約されています。

敗戦による占領状態の終了後、六〇年も居座りつづける占領軍（米軍）の存在の異常さは際立っています。

その根拠となっている日米安保条約は、密室での吉田茂全権大使による調印で始まりました。その付属協定である日米行政協定は国会で審議すらされませんでした。六〇年改定時は、衆議院で強行採決、その後の混乱のなかでの自動成立でした。そもそもはじまりから「民意」は反映されていません。しかも、条約の裏側にはいくつもの「密

ています。私たちはそういう県民の声を反映する知事を誕生させないといけない。菅首相は埋め立てに対して、県知事が拒否しても可能となるような特別措置法は考えていませんと言った。私はその言葉を信用しません。私たちは私たちの知事を私たちの手によって誕生させます。

日本政府を当てにしません。私は沖繩県のワシントンDC事務所みたいな県の出先機関を作って、アメリカ政府と直接対話、あるいは国連に直訴する。そういう実のある闘いを、沖繩の意思で作っていきたくて考えています。私たちの知事が誕生したらそういうことをどしどし提案していきたい。

沖繩の怒りは地域エゴではない。沖繩の怒りを、行政に、政治に反映するよう努力するのが政治家の役割でしょう。日米安保の問題をもっと国民の側に引き寄せる運動が、皆さん、一人一人に今かかっています。このことが沖繩の運動との連帯の深さにつながっていくと思います。政治をよくしていくのは政治家ではなく、民意、主権者である私たちなのだということを、民主党政権に、会場の皆さん、行動で突きつけていきましょう。

約」があったのです。さらに、その後は、「日米共同宣言」と言った形の政府間の取決めだけで、その内容は大幅に変えられてきました。

在日米軍は、日本の基地を出撃拠点・兵站基地として、朝鮮半島、ベトナム、アフガニスタン、イラクと戦争を繰り返しています。在日米軍基地は米国の軍事的世界戦略の前線基地として機能しているのです。

そうした日米軍（基地）を、日本政府は、駐留経費の七〇%もの負担や、地位協定による兵士や家族の特権的地位の保障など、世界で例を見ないほどに厚遇し支えています。

他方で、米軍基地の存在による負担（騒音や汚染、米兵による事件や事故の被害）を沖繩に押し付け、多くの民衆の目から隠してきました。

私たちはこうした現実を許すことができません。